

科目名 (英)	自然科学 ( Natural Science )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋未倫
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 木曜日 3限
教員の略歴	理学療法士、修士(理学)、Golf physio trainer。急性期から生活期の臨床現場を経験し、教員の経験を持つ。						
学習内容	理学療法を学ぶにあたり基礎となる学問として運動学、生理学、解剖学がある。 この講義ではその礎となる物理、化学、生物分野の基礎的な内容を学び、以降に学ぶ運動学、生理学、解剖学へと繋げる。 また、科学を利用する際に利用される簡単な数学の知識についても適宜整理を行う						
到達目標	物理分野の基礎的な知識を運動学へ繋げることができる。 生物、化学分野の基礎的な知識を解剖学、生理学へ繋げることができる。 基礎的な数学演算が習得できる。						
評価方法 (基準)	出席(45%)、レポート(物理、化学、生物:45%)(数学:10%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	生物学(循環)について記することができる。	講義の復習
2		講義	生物学(呼吸)について記することができる。	講義の復習
3		講義	生物学(排出)について記することができる。	講義の復習
4		講義	生物学(神経)について記することができる。	講義の復習
5		講義	生物学(筋骨格)について記することができる。	講義の復習
6		講義	生物学(消化)について記することができる。	講義の復習
7		講義	生物学(遺伝)について記することができる。	講義の復習
8		講義	化学(物質の成り立ち)について記することができる。①	講義の復習
9		講義	化学(物質の成り立ち)について記することができる。②	講義の復習
10		講義	化学(化学変化)について記することができる。	講義の復習
11		講義	化学(化学反応)について記することができる。①	講義の復習
12		講義	化学(化学反応)について記することができる。②	講義の復習
13		講義	物理学(圧力、浮力)について記することができる。	講義の復習
14		講義	物理学(運動)について記することができる。	講義の復習
15		講義	物理学(エネルギー)について記することができる。	講義の復習
準備学習 時間外学習			授業の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			資料を適宜配布	

科目名 (英)	保健科学 ( Health Science )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	吉田晴彦
学科・コース	理学療法科 I 部 ・ Aクラス	授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日 3~4限
教員の略歴	柔道整復師。現在、みやぎのはら接骨院の院長であり、スポーツ選手の活動サポートの実績を持つ。						
学習内容	体力向上のための実技として球技などを通し身体機能・構造を習得する。 また、健康な体づくりのための授業として栄養などをテーマとし保健分野の知識を習得する。 人間の運動にかかわる身体の機能と構造についてを知る						
到達目標	健康な体づくり、体力向上のための体育分野と 保健分野の専門知識と技術を身につける。						
評価方法 (基準)	1) 定期テスト(筆記50% 実技参加態度意欲50%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	機能解剖(上肢の骨・筋)を理解する		プリントの復習
2		講義	機能解剖(下肢の骨・筋)を理解する		プリントの復習
3		講義	機能解剖(体幹部の骨・筋)を理解する		プリントの復習
4		講義	トレーニング理論(プログラム変数)を理解する		プリントの復習
5		講義	トレーニング理論(筋力向上)を理解する		プリントの復習
6		講義	トレーニング理論(栄養及び減量)を理解する		プリントの復習
7		講義	血圧・血糖・コレステロールを把握する		プリントの復習
8		講義	血圧・血糖・コレステロールを把握する		プリントの復習
9		実技	バレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
10		実技	バレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
11		実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
12		実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
13		実技	バレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
14		実技	バレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
15		実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
16		実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
17		実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
18		実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
19		実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
20		実技	バレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
21		実技	バレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
22		実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
23		実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
24		実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
25		実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
26		実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
27		実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
28		実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
29		実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
30		実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
		本試験	筆記試験		
31		実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る		身体機能と構造の予習復習
準備学習 時間外学習			身体機能と構造の予習復習		
【使用教科書・教材・参考書】			トレーニング指導者テキスト実践編・理論編(大修館書店)		

科目名 (英)	教育学 ( Education )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋未倫
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 木曜日 4限
教員の略歴	理学療法士、修士(理学)、Golf physio trainer。急性期から生活期の臨床現場を経験し、教員の経験を持つ。						
学習内容	「教育」「理学療法」「コミュニケーション」の3つを主軸にグループワークなどを通じて協調性を図り、自身の意思(考え)を言葉や文章でしっかりと伝えることができるように参加型の授業となります。 教育学の基本的な考え方を学び、「学ぶ」「教える」といった情緒領域に必要な知識について学習する。						
到達目標	本教科は一般教養となります。「教育学」のテーマに沿う形で教育とは何か、なぜ教育が必要なのかを理解し、さらには社会的な側面や理学療法士となっていく過程の中での人間形成へと話を発展させ、学生の皆様がこれから過ごす4年間の重要性について理解を深めることを目標としていきます。						
評価方法 (基準)	出席 30% レポート 70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション	特に必要なし
2		講義	教育について考える①	授業の復習 小レポート提出
3		講義	教育について考える②	授業の復習 小レポート提出
4		講義	人の性格について学ぶ	授業の復習 小レポート提出
5		講義	人と社会との関係について学ぶ①	授業の復習 小レポート提出
6		講義	人と社会との関係について学ぶ②	授業の復習 小レポート提出
7		講義	人の行動と学習について学ぶ①	授業の復習 小レポート提出
8		講義	人の行動と学習について学ぶ②	授業の復習 小レポート提出
9		講義	コミュニケーションについて考える①	授業の復習 小レポート提出
10		講義	コミュニケーションについて考える②	授業の復習 小レポート提出
11		講義	コーチングについて考える①	授業の復習 小レポート提出
12		講義	コーチングについて考える②	授業の復習 小レポート提出
13		講義	心理学者に学ぶ①	授業の復習 小レポート提出
14		講義	心理学者に学ぶ②	授業の復習 小レポート提出
15		講義	心理学者に学ぶ③	授業の復習 小レポート提出
準備学習 時間外学習			授業の復習 小レポート提出	
【使用教科書・教材・参考書】			当日資料を配布します。	

科目名 (英)	心理学 ( Psychology )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	江崎浩明
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日 5限
教員の略歴	公認心理士、産業カウンセラー、修士(学術)。長年、精神・心理学関連の講義の講師を務める。						
学習内容	心理学の成り立ちや基礎的な心理学用語・概念を学ぶことで、多くの人々が持つ誤解や偏見から脱し、人が持つ考え方や捉え方の特徴について学びます。身体にダメージを受ければ必ず心にも何らかの不調を来します。理学療法士は身体の専門家ですが、心身不可分(心と体は密接に関係しているので、分けて考える事はできない)の為、心についても理解を深め、心身両面をサポートできる人材になることが求められます。また、自分自身を支える一つの柱として心理学的な視点を養います。						
到達目標	心理学の歴史や他の周辺領域との関連性、用語や概念を学術的基盤に則って学ぶことにより、雑学的な知識ではなく人間を理解する一助としての基礎心理学について理解する。これらの学びを、客観的な自己把握・自己理解のために用いることができるようになる。他者を主観的又は好き嫌いの感情的な枠組のみで捉えるのではなく、特に自分と考えや行動が異なる場合、知的的好奇心や興味関心を持ち、客観的な枠組みで捉えることができるようになる。						
評価方法 (基準)	定期試験100%(選択式と記述式)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	講義の進め方、教科書の使い方、ノートのとり方、評価方法を理解する。心理学を学ぶ目的を理解する。	心理学に対するイメージを考えておく
2		講義	基礎心理学と応用心理学の違い、心理学的知識の活用に対する功罪について説明できる。	心理学が誤用・悪用されている例を考えておく ○○心理学の○○に入りそうな言葉を考えておく
3		講義	心理学史 哲学からの独立、その後の自然科学からの影響を説明できる。	哲学から独立した流れを説明できるようにしておく 心理学が拡大した経緯を説明できるようにする
4		講義	感覚・知覚・認知 五感の働き、センサーの特徴、知覚的体制化、運動知覚について説明できる。	哲学から独立した流れを説明できるようにしておく 心理学が拡大した経緯を説明できるようにする
5		講義	記憶 I 記憶の過程、時間的変遷、種類と分類について説明できる。	自分の得意な記憶と苦手な記憶、考えなくても半自動的に動ける体の記憶について考えておく
6		講義	記憶 II 記憶の定着と忘却(エビングハウスの忘却曲線、逆行抑制、記憶術)について説明できる。	これまでの勉強や学習の方法について考えておく
7		講義	学習 経験による思考や行動の変化、古典的条件づけ、オペラント条件付けについて説明できる。	幼少期からの他者とは異なる習慣、どうせやっても自分には無理と思っていることについて考えておく
8		講義	動機づけ やる気を持続、自己効力感・自己無気力感、内発的・外発的動機づけについて説明できる。	これまでに挫折したことや、「自分にはどうせ○○はできない」と思っている事を考えておく。
9		講義	感情 喜怒哀楽や不安の種類や特徴、アンガーマネジメントについて説明できる。	最近嬉しかった・怒った・不安に怒ったこと・仲間はずれにされるのでは、と思ったことについて考えておく
10		講義	社会と人間 自己と自我、自己呈示や自己開示、パーソナルスペースについて説明できる。	友人にどんな人と思われたいか考えておく 人に流された経験について思い出しておく
11		講義	知能 知能の定義と構成要素、知能指数の測定、創造性や順応力について説明できる。	頭がよいとはどういうことか、学歴や偏差値でわかること・わからないことについて考えておく
12		講義	性格 性格の構成要素、歴史的な分類、変容に必要な要件について説明できる。	性格は変わるのか、変わるなら変えるために必要なものは何かについて考えておく
13		講義	心理検査 種類と分類、誤用と悪用、測定可能範囲について説明できる。	心理テストと心理ゲームの違いや何が測れて何が測れないのかについて予想しておく
14		講義	これまでに学んだ心理学用語・概念について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
		本試験	筆記試験	
15		講義		
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。	
【使用教科書・教材・参考書】			医療の行動科学 I 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー(北大路書房)	

科目名 (英)	英語 ( English Conversation I )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC
学科・コース	理学療法士科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1単位	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日 2限
教員の略歴	英会話講師、長年、日本人に対する英会話指導の経験を持つ。						
学習内容	滋慶学園の英語教育に長期に渡って携わり、Active Learningに取り組んできたネイティブの英語教員が、学生が専門分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的としたコミュニケーション主体の授業を行う。						
到達目標	医療英語テキストに基づき、医療の現場における様々なシチュエーションでの基本的な文法や語彙を習得する。医療の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法 (基準)	評価は、100点満点の筆記試験で行う。授業で学習した内容の定着度を確認する。評価は学則規定に準ずる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	Chapter 1 患者の個人情報を聞き出すことが出来る	教科書の復習
2		講義	Chapter 2 病院案内が出来る	教科書の復習
3		講義	Chapter 3 身体の部位や痛みの程度(強弱)を説明	教科書の復習
4		講義	Chapter 4 様々な病症を説明出来る	教科書の復習
5		講義	Chapter 5 患者の過去の病歴や家族の病歴について	教科書の復習
6		講義	Chapter 6 アレルギーやライフスタイルについて質	教科書の復習
7		講義	Chapter 7 患者に基本的な指示を出すことが出来る	教科書の復習
8		講義	Chapter 8 バイタルサインを説明することが出来る	教科書の復習
9		講義	Chapter 10 手術や治療について説明することが出	教科書の復習
10		講義	Chapter 12 整形外科に関連した語彙を覚える	教科書の復習
11		講義	Chapter 13 リハビリについて説明出来る	教科書の復習
12		講義	Chapter 14 リハビリや人工装具について説明出来る	教科書の復習
13		講義	Chapter 16 処方箋の支払いについて説明出来る	教科書の復習
14		講義	Chapter 17 処方箋とくすりについて説明出来る	教科書の復習
		本試験	定期試験	
15		講義	試験の解説、これまでに学習した内容の復習	教科書の復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	コミュニケーション論 (Communication)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	丸屋健
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日 4限目
教員の略歴	理学療法士。回復期、通所・訪問リハビリテーションを経験し、地域の健康増進教室や介護予防啓発活動も実施。						
学習内容	事前学習を行い、当日授業は、「導入」、「事前学習の発表会」、「解説」、「演習(ワーク)」、「グループ学習」、個人の「振り返り」で構成される。これらの内容を通して、自分の意見を持ち、人の考えを正しく汲み取ることの難しさを知る。そして、自分の考えを大切にすること、皆で決めたことを守ることを両立する態度を身につけ、自己信頼を育むことが出来るようになる。						
到達目標	受講者(学生)が「聞く、話す、読む、書く」ということばを使ったコミュニケーションを上手に行うための基本的な技法(目の付け所と、方法)を知り、それを(何度も使うことにより)使う「習慣」を身につけることを目指す。						
評価方法 (基準)	レポート(指定のワークブック) 70%・出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	理学療法評価に必要なコミュニケーションを説明できる。	資料配布
2		講義	コミュニケーション技法について述べる事ができる	指定教科書該当ページの予読
3		講義	ブレインストーミング法、KJ法を説明できる	指定教科書該当ページの予読
4		講義	聞き上手の技法を述べる事ができる	指定教科書該当ページの予読
5		講義	話し上手の技法を述べる事ができる	指定教科書該当ページの予読
6		講義	読み上手の技法①を述べる事ができる	指定教科書該当ページの予読
7		講義	読み上手の技法②を述べる事ができる	指定教科書該当ページの予読
8		講義	書き上手の技法を述べる事ができる	指定教科書該当ページの予読
9		講義	テーマ探しの技法を述べる事ができる	指定教科書該当ページの予読
10		講義	自分探しの技法①を述べる事ができる	指定教科書該当ページの予読
11		講義	自分探しの技法②を述べる事ができる	指定教科書該当ページの予読
12		講義	インタビュー仕事の基本的技術を述べる事ができる	指定教科書該当ページの予読
13		講義	コミュニケーション技法における要約の整理①を説明できる	指定教科書該当ページの予読
14		講義	コミュニケーション技法における要約の整理②を説明できる	指定教科書該当ページの予読
15		講義	コミュニケーション技法の活用方法を説明できる	指定教科書該当ページの予読
準備学習 時間外学習			グループ学習を毎回実施するにあたり課題を出す	
【使用教科書・教材・参考書】			コミュニケーション技法(キャリア教育総合研究所) コミュニケーション技法ワークブック(キャリア教育総合研究所)	

科目名 (英)	解剖学 I (Anatomy I)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	溝口二郎
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期 火曜日 3限
教員の経歴	医学博士(東北大学)。長期に渡り、解剖学関連の講義の講師を務める。						
学習内容	解剖学は理解する学問であることを念頭に置き、解剖組織図で理解を深め、標本や生体に触れて、具体的な人体構造と機能を学習させる。						
到達目標	細胞学、組織学、発生学を基礎として、その上に人体の構造・機能を、系統的に理解できるようにする。						
評価方法 (基準)	確認試験50%、定期試験50%。2つの試験問題の6割以上を正しく解答できること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	解剖学の歴史と分類、人体の構成の理解	プリントとノートによる予習と復習
2		講義	細胞の構造、細胞分裂と遺伝子の理解	同上
3		講義	上皮組織、線維性結合組織、軟骨組織の理解	同上
4		講義	骨組織、血液とリンパ、多能性幹細胞の理解	同上
5		講義	平滑筋、骨滑筋、神経細胞、神経膠細胞の理解	同上
6		講義	皮膚と知覚：皮膚の構造、知覚神経終末、皮膚線および毛、爪の構造の理解	同上
7		講義	骨組織、全身の骨格の理解	同上
8		講義	人体各部位の詳細な解剖学名に慣れること	同上
9		講義	骨格系概説、および関節の分類の理解	同上
10		講義	骨連結、関節と靭帯、脊柱の構成の理解	同上
11		講義	脳頭蓋：前頭骨、頭頂骨、後頭骨、蝶形骨の理解	同上
12		講義	脳頭蓋：側頭骨、篩骨の理解 顔面頭蓋：上顎骨、下顎骨の理解	同上
13		講義	顔面頭蓋：頬骨、下鼻甲介、涙骨、鼻骨、鋤骨、口蓋骨、舌骨の理解	同上
14		講義	頭蓋の全体的観察 頭蓋の縫合、軟骨結合、顎関節の理解	同上
15		講義	内頭蓋底の諸孔と、それらを通る脳神経・大きな脈管の理解	同上
16		講義	椎骨：頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎、脊柱の連結の理解	同上
17		講義	胸郭：胸椎、胸骨、肋骨、肋間膜 胸郭の連結の理解	プリントとノートによる予習と復習
		試験	確認試験	
18		講義	上肢帯の骨格：鎖骨、肩甲骨と 関わる筋、靭帯の理解	同上
19		講義	上腕骨および上腕骨に関わる筋、 靭帯の理解	同上
20		講義	前腕骨、手の骨の構造と運動 屈筋支帯と手根管の理解	同上
21		講義	上肢帯の連結：胸鎖関節、肩鎖関節、 肩関節と靭帯・滑液包・関節円板の理解	同上
22		講義	肘関節、上・下橈尺関節、橈骨手根関節、 手根中央関節、手根間関節と運動の理解	同上
23		講義	手根中手関節、中手間関節、中手指節関 節、上腕骨の後捻角と頸体角、肘角の理解	同上
24		講義	下肢帯の骨格：腸骨、恥骨、坐骨と 骨盤の構造・靭帯の理解	同上
25		講義	大腿骨の上端部、骨頸、骨体後面と、 関わる筋、靭帯の理解	同上
26		講義	大腿骨下端部と、そこに関わる筋、靭帯、 および膝蓋骨の理解	同上
27		講義	下腿の骨：脛骨、腓骨の構造と、仙腸関節、 恥骨結合の理解	同上
28		講義	および運動の理解	同上
29		講義	滑液包、膝関節の運動の理解	同上
30		講義	足根骨、中足骨、趾骨、足弓、上・下跳躍関 節、シヨパール・リスフラン関節、靭帯の理解	同上
		試験	定期試験	
準備学習 時間外学習			プリント、教科書、参考書を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】			「解剖学」編集 野村巖 医学書院 「ネッター解剖学アトラス」訳 相磯貞和 南江堂 「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂 「分肢解剖学 1、2、3」森 於菟 他 金原出版 「フロメテウス解剖学アトラス」監訳 板井建雄 医学書院	

科目名 (英)	解剖学Ⅱ ( Anatomy II )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	田中志典
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日 1～2限
教員の略歴	歯科医師。海外への研究留学経験を持ち、現在、東北大学病院に所属している。						
学習内容	解剖学では正常な人体の構造について学ぶ。 生理学、病理学など他の基礎医学系科目を理解するためには解剖学の知識は必須である。 解剖学Ⅱでは特に内臓器系(循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系、内分泌系)について知識を深める。						
到達目標	内臓器系の基本的な構造と機能を理解する。						
評価方法 (基準)	1) 定期テスト100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	内臓器官の基本構造	講義内容の復習
2		講義	循環器系	講義内容の復習
3		講義	循環器系	講義内容の復習
4		講義	循環器系	講義内容の復習
5		講義	循環器系	講義内容の復習
6		講義	呼吸器系	講義内容の復習
7		講義	呼吸器系	講義内容の復習
8		講義	消化器系	講義内容の復習
9		講義	消化器系	講義内容の復習
10		講義	消化器系	講義内容の復習
11		講義	泌尿生殖器系	講義内容の復習
12		講義	泌尿生殖器系	講義内容の復習
13		講義	内分泌系	講義内容の復習
14		講義	内分泌系	講義内容の復習
15		講義	解剖学Ⅱのまとめを行う	講義内容の復習
		試験	本試験	
準備学習 時間外学習			毎回講義内容を復習する。教科書を読む。	
【使用教科書・教材・参考書】			標準理学療法学・作業療法学、グレイ解剖学、人体の正常構造と機能	

科目名 (英)	解剖学実習 ( Practice in Anatomy )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	前期:出 中 後期:木
学科・コース	理学療法科1部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (2)	開講区分	前期:1~2 期 後期:3~4 期
教員の略歴	田中志典: 歯科医師、海外への研究留学経験を持ち、現在、東北大学病院に所属している。 木村謙: 歯科医師、長年、解剖学関連の講義の講師を務める。						
学習内容	解剖学では正常な人体の構造について学ぶ。 生理学、病理学など他の基礎医学系科目を理解するためには解剖学の知識は必須である。 解剖学実習では特に筋系、神経系、局所解剖学、体表解剖学について知識を深める。						
到達目標	筋系、神経系の基本的な構造、機能を理解する。 骨格筋の起始・停止、走行、神経支配を知り、その作用を理解する。 神経系が他の器官とどのように関連するかを説明できるようにする。 局所における人体内の諸構造の形状とその位置関係、体表からの同定方法について学ぶ。						
評価方法 (基準)	1) 定期テスト90% 2) 出席数(授業態度)10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	筋系総論	講義内容の復習
2		講義	筋系総論	講義内容の復習
3		講義	体幹の筋	講義内容の復習
4		講義	体幹の筋	講義内容の復習
5		講義	体幹の筋	講義内容の復習
6		講義	上肢の筋	講義内容の復習
7		講義	上肢の筋	講義内容の復習
8		講義	上肢の筋	講義内容の復習
9		講義	下肢の筋	講義内容の復習
10		講義	下肢の筋	講義内容の復習
11		講義	下肢の筋	講義内容の復習
		確認試験		
12		講義	神経系(神経系総論)	プリントによる講義内容の予習
13		講義	神経系(神経系総論)	プリントによる講義内容の予習
14		講義	神経系(神経系総論)	プリントによる講義内容の予習
15		講義	神経系(神経系総論)	プリントによる講義内容の予習
16		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
17		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
18		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
19		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
20		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
21		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
22		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
23		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
24		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
25		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
26		講義	神経系(中枢神経系)	プリントによる講義内容の予習
27		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
28		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
29		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
30		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
31		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
32		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
33		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
34		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
35		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
36		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
37		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
38		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
39		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
40		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
41		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
42		講義	神経系(末梢神経系)	プリントによる講義内容の予習
43		講義	局所解剖学	プリントによる講義内容の予習
44		講義	体表解剖学	プリントによる講義内容の予習
45		講義	試験対策	講義内容の復習
		定期試験		
準備学習 時間外学習	毎回講義内容を復習する。教科書を読む。			
【使用教科書・教材・参考書】	標準理学療法学・作業療法学、グレイ解剖学、人体の正常構造と機能			

科目名 (英)	生理学 I ( Physiology I )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	川上智史
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期:月曜 後期:水曜 曜日・時限
教員の略歴	博士(医学)、長年、生理学や公衆衛生関連の講義の講師を務め、現在、桐生大学医療保健学部栄養学科の准教授を担っている。						
学習内容	人間の体は複雑な構造をしている。しかし必要の無い臓器は一切無く、それぞれが生命維持のために役割を果たしている。生理学 I においては細胞レベルから臓器レベルまで簡単な構造について学び、それぞれの機能を理解する。						
到達目標	理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学習する。						
評価方法 (基準)	筆記試験80%、授業態度10%、課題レポート10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	人体とは何か、人体を表す基準について理解できる	教科書を読んでおくこと
2		講義	細胞と組織の生理学的差異について理解できる	教科書を読んでおくこと
3		講義	血液、血液の概要を理解できる	教科書を読んでおくこと
4		講義	造血のメカニズムを理解できる	教科書を読んでおくこと
5		講義	赤血球の構造と働きを理解できる	教科書を読んでおくこと
6		講義	赤血球の破壊について理解できる	教科書を読んでおくこと
7		講義	血液型・メンデルの法則を理解できる	教科書を読んでおくこと
8		講義	血小板の作用について理解できる	教科書を読んでおくこと
9		講義	血漿、血液凝固因子、カスケード反応について理解できる	教科書を読んでおくこと
10		講義	白血球を中心とした生体防御作用について理解できる	教科書を読んでおくこと
11		講義	非特異的防御機構について理解できる	教科書を読んでおくこと
12		講義	特異的防御機構について理解できる。また細胞性免疫・液性免疫の違い、抗体産生の流れについても理解できる	教科書を読んでおくこと
13		講義	体液について理解できる	教科書を読んでおくこと
14		講義	酸塩基平衡について理解できる	教科書を読んでおくこと
15		講義	体温のメカニズムを理解できる	教科書を読んでおくこと
16		講義	外皮・発汗作用について理解できる	教科書を読んでおくこと
		試験	確認試験	
17		講義	骨の機能について理解できる	教科書を読んでおくこと
18		講義	骨のリモデリングについて理解できる	教科書を読んでおくこと
19		講義	骨格筋の機能について理解できる	教科書を読んでおくこと
20		講義	筋収縮のメカニズムを理解できる	教科書を読んでおくこと
21		講義	循環器概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
22		講義	体循環と肺循環を理解できる	教科書を読んでおくこと
23		講義	心臓の生理について理解できる	教科書を読んでおくこと
24		講義	心電図について理解できる	教科書を読んでおくこと
25		講義	循環器の生理を理解できる	教科書を読んでおくこと
26		講義	呼吸器の概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
27		講義	スパイロメーター・酸素解離曲線について理解できる	教科書を読んでおくこと
28		講義	消化管の全容を理解できる	教科書を読んでおくこと
29		講義	胃酸を含む消化酵素について理解できる	教科書を読んでおくこと
30		講義	肝胆膵の役割について理解できる	教科書を読んでおくこと
		試験	定期試験	
準備学習 時間外学習		講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり		
【使用教科書・教材・参考書】		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版		

科目名 (英)	生理学Ⅱ ( Physiology II )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	川上智史
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日 1~2限
教員の略歴	博士(医学)。長年、生理学や公衆衛生関連の講義の講師を務め、現在、桐生大学医療保健学部栄養学科の准教授を担っている。						
学習内容	人間の体は複雑な構造をしている。しかし必要の無い臓器は一切無く、それぞれが生命維持のために役割を果たしている。生理学Ⅱにおいては臓器レベルでそれぞれの機能を理解する。						
到達目標	理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学習する。						
評価方法 (基準)	筆記試験80%、授業態度10%、課題レポート10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	泌尿器系の概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
2		講義	尿の生成・再吸収について理解できる	教科書を読んでおくこと
3		講義	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系について理解できる	教科書を読んでおくこと
4		講義	内分泌について理解できる	教科書を読んでおくこと
5		講義	ホルモン・ホルモンレセプターを理解できる	教科書を読んでおくこと
6		講義	各種ホルモンを理解できる①	教科書を読んでおくこと
7		講義	各種ホルモンを理解できる②	教科書を読んでおくこと
8		講義	各種ホルモンを理解できる③	教科書を読んでおくこと
9		講義	神経系の概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
10		講義	$\alpha$ - $\gamma$ 連関など神経伝達について理解できる	教科書を読んでおくこと
11		講義	活動電位について理解できる	教科書を読んでおくこと
12		講義	記憶など脳機能について理解できる	教科書を読んでおくこと
13		講義	特殊感覚について理解できる①	教科書を読んでおくこと
14		講義	特殊感覚について理解できる②	教科書を読んでおくこと
15		講義	生殖器系の生理について理解できる	教科書を読んでおくこと
		試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習			講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり	
【使用教科書・教材・参考書】			標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 新採用 医学書院	

科目名 (英)	生理学実習 ( Practice in Physiology )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	稲葉夏海
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	後期 土・月・火 1~4限
教員の略歴	理学療法士。回復期から生活期のリハビリテーションを経験。						
学習内容	実習を通じて体験することで理学療法における評価・治療と生理学の知識をつなげるために、実習を行う。						
到達目標	生理学実習を通して、座学で学んだ生理学をより深く掘り下げることで、明確な知識を取得することを目標とする。						
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート: 80%</li> <li>・授業内評価: 20%</li> </ul>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	教科ガイダンス	プリントを確認
2		実習	該当範囲となる領域の生理学的知識を整理し、実習の準備をする。	生理学の復習
3		実習	①血圧測定についての実習を実施する。	評価の予習復習
4		実習	②血圧測定についての実習を実施する。	評価の予習復習
5		実習	①体力測定についての実習を実施する。	評価の予習復習
6		実習	②体力測定についての実習を実施する。	評価の予習復習
7		実習	①体性感覚-表在感覚についての実習を実施する。	評価の予習復習
8		実習	②体性感覚-表在感覚についての実習を実施する。	評価の予習復習
9		実習	①体性感覚-深部感覚についての実習を実施する。	評価の予習復習
10		実習	②体性感覚-深部感覚についての実習を実施する。	評価の予習復習
11		実習	①運動負荷時の生理的变化について実習を実施する。	評価の予習復習
12		実習	②運動負荷時の生理的变化について実習を実施する。	評価の予習復習
13		実習	①筋電図についての実習を実施する。	評価の予習復習
14		実習	②筋電図についての実習を実施する。	評価の予習復習
15		実習	①心電図についての実習を実施する。	評価の予習復習
16		実習	②心電図についての実習を実施する。	評価の予習復習
17		実習	①肺機能検査についての実習を実施する。	評価の予習復習
18		実習	②肺機能検査についての実習を実施する。	評価の予習復習
19		実習	実習内容のまとめ	評価の予習復習
20		実習	実習内容のまとめ	評価の予習復習
21		実習	実習内容のまとめ	評価の予習復習
22		実習	実習内容のまとめ	評価の予習復習
23		実習	実習内容のまとめ	評価の予習復習
準備学習 時間外学習			評価の予習復習	
【使用教科書・教材・参考書】			適時、資料配布	

科目名 (英)	運動学 ( Kinesiology )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜日 1・2限
教員の略歴	理学療法士(認定・脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	①解剖学的知識から生体力学や運動と動作の分析、運動学習等、人間の運動の科学を学習する。 ②身体運動についての運動学的な用語や表現方法を学習する。 ③健康者同士の体験課題をもとに、関節や筋の知識と実際の身体イメージを関連付けて理解する。						
到達目標	①身体運動における面と軸、基本的肢位を理解し説明できる。 ②各関節の構造と機能について特徴を説明できる。 ③筋の起始・停止、作用、神経支配について説明できる。						
評価方法 (基準)	・筆記試験:100%						

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		講義	オリエンテーション			
2		講義	運動器の構造と機能を手ひ、可動関節の分類、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
3		講義	①肩複合体の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
4		講義	②肩複合体の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
5		講義	①肘関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
6		講義	②肘関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
7		講義	①手関節・手指の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
8		講義	②手関節・手指の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
9		講義	①股関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
10		講義	②股関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
11		講義	①膝関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
12		講義	②膝関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
13		講義	①足関節・足部の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
14		講義	②足関節・足部の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
15		講義	脊柱の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。(頰椎)	教科書・ノートにて予習復習をする。		
		確認試験				
16		講義	脊柱の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。(胸・腰椎)	教科書・ノートにて予習復習をする。		
17		講義	【生体力学基礎】身体運動におけるベクトルとモーメントの概念を説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
18		講義	姿勢の基本的概念を理解できる。(Key:肢位・構え)	教科書・ノートにて予習復習をする。		
19		講義	①姿勢と姿勢制御について、重心と支持基底面の関係から説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
20		講義	②姿勢と姿勢制御について、重心と支持基底面の関係から説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
21		講義	①歩行周期について身体重心移動、下肢関節運動の観点から理解を深め、説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
22		講義	②歩行周期について身体重心移動、下肢関節運動の観点から理解を深め、説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
23		講義	①歩行時に必要な筋活動を理解し、異常歩行との関連性を説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
24		講義	②歩行時に必要な筋活動を理解し、異常歩行との関連性を説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
25		講義	①運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
26		講義	②運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
27		講義	③運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
28		講義	④運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
29		講義	ヒトの成長過程と運動発達の関係を学び、姿勢反射について要点を説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
		本試験				
30		講義	運動学習の特徴を理解し、練習と訓練に必要な知識を説明できる。	教科書・ノートにて予習復習をする。		
準備学習	時間外学習	基礎運動学の教科書を事前に読んでおくこと。				
【使用教科書・教材・参考書】	基礎運動学 第6版 改訂(医歯薬出版) 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版(医学書院) 国試の達人 運動解剖生理学編 理学療法科学学会編					

科目名 (英)	人間発達学 ( Human Development )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	江崎浩明 加藤由美
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 木曜日 3限
教員の略歴	江崎浩明:公認心理士、産業カウンセラー、修士(学術)。長年、精神・心理学関連の講義の講師を務める。 加藤由美:看護師、助産師、保育士。長年、人間発達関連の講義の講師を務める。						
学習内容	生まれてから亡くなるまでの生涯を通し、どのように発達していくのかを、乳児期・幼児前期・幼児後期・児童期・青年期・成人前期・成人期・高齢期の各発達段階に分け、またその過程で直面する様々な発達課題について学びます。出生から見られる原始反射や身体的な変化、発達スクリーニング検査等についての知識を得ることで、身体的な”成長”と精神的な”発達”の両側面から人間の変化を捉えることが出来る視点を身につけます。						
到達目標	各発達段階と発達課題を理解し、それぞれに適した養育的・尊重的かかわりが出来るようになる。 乳児期から幼児前期・幼児後期にかけての標準的な成長・発達の過程を説明できるようになる。 自分自身の発達について、長期的スパンで捉えられるようになる。						
評価方法 (基準)	定期試験100%(選択式と記述式)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	講義の進め方、教科書の使い方、ノートのとり方、評価方法を理解する。	成長と発達の違いについて考えておく
2		講義	成長と発達の違いについて説明できる。	数値や目に見える形で変化するものと話したり行動して初めて違いがわかるものを考えておく
3		講義	発達概念の歴史的変遷について説明できる。	”こども”と”おとな”の社会的責任や役割の違いについて考えておく
4		講義	エリクソンの漸成的発達段階の概要について説明できる。	人間の発達に、年齢によってどのような違いがあるのかを考えておく
5		講義	胎児期・周産期や原始反射について説明できる。	母子手帳等を用いて自分の”生まれ”について考えておく
6		講義	新生児・乳児期の課題(生理的早産・臨界期・気質論等)について説明できる。	乳幼児にとって安全な環境や危険な環境について・他の動物との生まれの違いについて考えておく
7		講義	幼児前期の課題(歩行と言語獲得・分離不安等)について説明できる。	幼児の行動範囲の広がりや興味関心について考えておく
8		講義	幼児後期の課題(トイレトレーニング、性別の理解等)について説明できる。	自分がいつオムツを使わなくなったか、性別の違いについて認識し始めたのはいつか、考えておく
9		講義	児童期の課題(劣等感の形成・ギャングエイジ・不登校やいじめ等)について説明できる。	小学生の頃に持っていた劣等感や、もの周りにおきたいじめや不登校について考えておく
10		講義	青年期(アイデンティティーとモラトリアム、NEET等)について説明できる。	今現在の将来になりたい自分像や、将来への迷いについて考えておく
11		講義	成人前期(生殖性・過程や仕事に対する停滞感・倦怠感等)について説明できる。	5年後・10年後のなりたい自分像について考えておく
12		講義	成人期の課題(更年期障害・空の巣症候群・熟年離婚等)について説明できる。	自分の親世代が直面している課題・問題について考えておく
13		講義	高齢期の課題(喪失・孤独・老老介護・生きがいの再設定・死の受容過程等)について説明できる。	自分の祖父母世代が直面している課題・問題について考えておく
14		講義	これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
15		講義	まとめ	
		本試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。	
【使用教科書・教材・参考書】			生涯人間発達学 第2版(医学書院)	

科目名 (英)	医学概論 ( Introduction to Medicine )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	鈴木寿則
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜日 3~4限
教員の略歴	博士(医学)。東北大学医学系研究科非常勤講師も務める。						
学習内容	この授業は、理学療法士として必要な医学に関する法律の知識を学習するためのものです。他に関連する科目として、生理学及び病理学と関係します。受講生に対する要望として、授業をつうじて自分なりに学修成果をまとめる能力を養って頂きたいと思います。そのために、授業の展開として、教科書を中心に講義を行い、保健医療福祉関係について、基礎的な知識を学修します。						
到達目標	①医療及び健康の概念について説明できる。 ②生活習慣病に関する靱帯の機能及び構造について説明できる。 ③医療に関する制度及び法律について説明できる。						
評価方法 (基準)	試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	細胞について説明できる。	教科書による通読
2		講義	健康の定義について説明できる。	教科書による通読
3		講義	予防医学について説明できる。	教科書による通読
4		講義	健康日本21(第二次)について説明できる。	教科書による通読
5		講義	スクリーニングについて説明できる。	教科書による通読
6		講義	疫学研究について説明できる。	教科書による通読
7		講義	疫学研究の種類について説明できる。	教科書による通読
8		講義	疫学指標について説明できる。	教科書による通読
9		講義	がんについて説明できる。	教科書による通読
10		講義	心疾患について説明できる。	教科書による通読
11		講義	高血圧及び糖尿病について説明できる。	教科書による通読
12		講義	脳血管疾患について説明できる。	教科書による通読
13		講義	呼吸器疾患について説明できる。	教科書による通読
14		講義	メンタルヘルスについて説明できる。	教科書による通読
		本試験	筆記試験	
15		講義	試験の解答および解説	教科書による通読
準備学習 時間外学習			あらかじめ教科書を通読し、講義内容の概略を把握しておくことを目的とする。	
【使用教科書・教材・参考書】			Active Aging 健康管理学	

科目名 (英)	病理学 ( pathology )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	大沼 英子
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 金曜日 5限
教員の略歴	歯科医師。現在、歯科医院に勤務している。						
学習内容	疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得する。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学ぶ。						
到達目標	疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深める。						
評価方法 (基準)	定期試験 70% レポートおよび出席状況、授業態度等の定常点30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	病理概説 病理の業務 疾患の一般	病理学の業務と関係用語を説明できる
2		講義	病因論1 内因	疾患の原因(内因)を説明できる
3		講義	病因論2 外因①	疾患の原因(栄養障害)を説明できる
4		講義	病因論3 外因②	疾患の原因(物理的外因)を説明できる
5		講義	病因論4 外因③	疾患の原因(化学的外因)を説明できる
6		講義	病因論5 外因④	疾患の原因(生物学的外因)を説明できる
7		講義	細胞障害1(定義・萎縮・変性)	細胞障害で起こる現象を説明できる
8		講義	細胞障害2(代謝障害と疾患、壊死)	代謝障害で起こる現象を説明できる
9		講義	循環障害	循環障害で起こる現象を説明できる
10		講義	進行性病変	細胞の修復過程を説明できる
11		講義	炎症	炎症で起こる現象を説明できる
12		講義	免疫①	免疫に関わる細胞とシステムを説明できる
13		講義	免疫②	免疫異常によって起こる疾患を説明できる
14		講義	腫瘍①	腫瘍とはどのようなものは説明できる
15		講義	腫瘍②・先天性異常	先天性異常の原因、疾患を説明できる
		試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習			解剖学・生理学等関連する内容について、必要に応じて確認しながら理解を深めてほしい	
【使用教科書・教材・参考書】			病理学 第4版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院	

科目名 (英)	臨床心理学 ( Clinical Psychology )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	江崎浩明
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜日 2限
教員の略歴	公認心理士、産業カウンセラー、修士(学術)。長年、精神・心理学関連の講義の講師を務める。						
学習内容	他の心理学との違いや精神医学・社会学等周辺領域との関係性について学ぶことで、心の問題を理解する為に必要な臨床心理学的視点の獲得を目指します。その為に、ある人間の今を「人格理論」から、なぜそうなったかを「発達理論」から類推し、面接技法や心理検査も用いて仮説-検証していくモデルを学びます。また、さまざまな精神症状・精神疾患の特徴を学ぶことによって、「なんか変な人・おかしい人」という捉え方から「何らかの特徴によって生き辛さを感じている人」という捉え方にシフトし、差別的な関わりからより援助的な関わりができるように多様な視点の獲得を試みます。これらを学ぶ過程から、自分自身に対する劣等感や不安全感を軽減し、問題を抱えながらもそれと上手く折り合いをつけ、たくましく生きていける精神的タフさ・粘り強さの獲得を目指します。						
到達目標	一般的又は医学的な問題把握ではなく、医学が捉えきれない心の問題について、臨床心理学的視点で捉えることができるようになる。 正常レベル・神経症レベル・精神病レベルの違いや、病識の有無、病態水準の概念について理解する。 代表的な人格理論と発達理論を学び、さらに各心理臨床家の人を捉える視点や枠組みの違いについて理解する。 他者理解のためにどのような情報が手がかりとなるかについて理解する。						
評価方法 (基準)	定期テスト(前期50%、後期50%) 国家試験出題レベルのマークシート方式						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義	他の心理学との関連性や独自性を説明できる。	これまで学んだ心理学用語や概念を復習しておく。			
2		講義	従来の医学的視点ではなく、臨床心理学的視点で捉えることの重要性を説明できる。	医学で用いられる検査や機器では測定できない問題について考えておく。			
3		講義	予後・過剰適応・過剰防衛や、完治・根治と寛解の違いを説明できる。	人に何かを頼まれたら断りにくいタイプか、嫌なら平気で断れるタイプかを考えておく。			
4		講義	表面に現れている発熱や頭痛等の症状と、その原因を同時並行に捉え対処する必要性を説明できる。	これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出ししておく。			
5		講義	「元通りになること」と「より適応的に変化すること」の違いについて説明できる。	これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出ししておく。			
6		講義	DSM-5(診断基準)の内容と、正常レベル・神経症レベル・精神病レベルについて説明できる。	自分の中での心の問題の重さや軽さの基準について考えておく。			
7		講義	人格理論Ⅰ Freudの精神分析理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	意識と無意識、自分の欲求とそれを抑える気持ちについて考えておく。			
8		講義	人格理論Ⅱ Jungの分析的心理学理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	自分の中の理想的な同性像・異性像、社会的な役割の仮面について考えておく。			
9		講義	人格理論Ⅲ Rogersの来談者中心療法の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	受容や共感に代表される現代のカウンセリングのイメージについて考えておく。			
10		講義	発達理論Ⅰ Mahler, Winnicottの発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	乳幼児期にいつも肌身離さず持ち歩いていた物を思い出ししておく。			
11		講義	発達理論Ⅱ Eriksonの漸成的発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	乳児期から高齢期までの8段階の発達段階と発達課題を復習しておく。			
12		講義	他者理解のための基礎的知識(家系図の読み、既往歴・現病歴等)の扱い、捉え方について説明できる。	"他者理解するために集める情報"にはどのようなものがあるかについて考えておく。			
13		講義	心理検査Ⅰ 種類と分類、代表的な発達検査と知能検査について説明できる。	心理テストと心理ゲームの違いや、古いオーラ等と何が違うかについて考えておく			
14		講義	復習。これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく			
15		講義	心理検査Ⅱ 代表的な性格検査(質問紙法・投影法・作業検査法)について説明できる。	性格検査で測定可能なことと想定不可能なことは何かを考えておく。			
		講義	アセスメントⅠ 自閉スペクトラムについて説明できる。	自閉症と聞いてどのような病態像が頭に浮かぶが考えておく。			
16		講義	アセスメントⅡ AD/HD・学習障害を含む発達障害について説明できる。	落ち着きが無い子、動き回る子や、発達障害の病態像について考えておく。			
17		確認試験					
18		講義	復習。これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく			
19		講義	アセスメントⅢ 情緒障害・母性剥奪症候群・虐待・不登校・知的能力障害等について説明できる。	自分や自分のまわりに居た不登校やひきこもりについて思い出ししておく。			
20		講義	アセスメントⅣ 不安障害・パニック障害・摂食障害等について説明できる。	自分が抱える不安の種類・強度・持続期間について考えておく。			
21		講義	アセスメントⅤ うつ病・双極性障害について、その特徴や治療について説明できる。	うつ病について、知っていることやイメージをまとめておく。			
22		講義	アセスメントⅥ 統合失調症について、その特徴や治療について説明できる。	統合失調症の病態像について考えておく。			
23		講義	アセスメントⅦ 認知症(アルツハイマー、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型)について説明できる。	認知症の種類や症状の違いについて考えておく。			
24		講義	心理療法Ⅰ 非指示的心理療法・クライエント中心療法について説明できる。	"カウンセリング"と言われて頭の中のイメージが湧くかを考えておく。			
25		講義	心理療法Ⅱ 精神分析・分析的心理学療法について説明できる。	気がついたら無意識のうちに何かやっちゃってしまっていたことを思い出ししておく。			
26		講義	心理療法Ⅲ 遊戯療法・音楽療法・箱庭療法・コラージュについて説明できる。	まだ上手く言葉で辛さや不安を表現できない子どもへのサポート方法を考えておく。			
27		講義	心理療法Ⅳ 自律訓練法・家族療法・森田療法について説明できる。	自分の家族のそれぞれの人間関係について考えておく。			
28		講義	心理療法Ⅴ 認知行動療法について説明できる。	辛いときやストレスでつぶれそうなお時、いつも頭に浮かぶ事やとってしまう行動について考えておく。			
29		講義	これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく			
		本試験					
30		演習	聴くスキル 演習	自分にとって大事・大切な人が困っている時を想定しておく。			
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ、思い返して復習してください。				
【使用教科書・教材・参考書】			心とかかわる臨床心理 基礎・実際・方法 第3版				

科目名 (英)	リハビリテーション医学 ( Rehabilitation Medicine )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	今田 元
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 土曜日 3~4限
教員の略歴	医師。現在、仙台リハビリテーション病院に勤務している。						
学習内容	(1)チーム医療であるリハビリテーション医療における理学療法士の役割を理解する。 (2)リハビリテーション専門職として患者、家族に接する際の心構えを理解する。 (3)リハビリテーションの対象となる疾患・病態と行われる理学療法の概要を理解する。 医療全体の中で、リハビリテーション医療の位置づけ、進め方について、実際の例を踏まえて解説する。解剖学、生理学などを通じて理解した「正常」を基礎として、「障害」を生ずる様々な疾患、それに対する、理学療法士としての関わり方について解説する。						
到達目標	・リハビリテーション医学の歴史や体系について学び、また障害の診断・治療についても説明できる。 (2019年教育指導要領より抜粋) 将来、仕事に就いた際に接する障害について、その原因となる疾病や外傷について、専門的な用語に接して概要を理解する。「障害」を理解するためには「正常」を理解しておく必要があり、解剖学、生理学、運動学などの知識と関連付けて理解する。						
評価方法 (基準)	評価方法: 定期試験 合格基準: 60点/100点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	リハビリテーション医学総論(1): 歴史, 定義と理念, 分野, 対象	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
2		講義	リハビリテーション医学総論(2): 障害のレベルと評価, 介入方法等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
3		講義	脳卒中(1): 定義, 分類と原因	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
4		講義	脳卒中(2): 障害と評価法, リハの進め方	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
5		講義	その他の脳疾患: 脳外傷, 低酸素脳症, 遷延性意識障害等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
6		講義	神経筋疾患: パーキンソン病, 筋委縮性側索硬化症, 脊髄小脳変性症等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
7		講義	末梢神経疾患: 腕神経叢麻痺, 多発神経障害, 単神経障害等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
8		講義	脊髄疾患: 脊髄損傷, 二分脊椎, 脊髄血管障害	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
9		講義	関節リウマチとその近縁疾患: 関節リウマチ, 悪性関節リウマチ等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
10		講義	関節疾患: 肩関節周囲炎, 変形性股関節症, 変形性膝関節症等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
11		講義	外傷: 外傷の特徴, 骨折, スポーツ外傷, 複合性局所疼痛症候群等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
12		講義	脊椎疾患, 切断: 脊柱側弯症, 椎間板ヘルニア, 義肢, 装具等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
13		講義	内部疾患(1): 心疾患, メタボリック症候群, 呼吸器疾患等	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
14		講義	高齢者のリハ, 小児リハ, 地域リハ	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
		本試験	筆記試験	
15		講義	試験問題の解説	解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照。
準備学習 時間外学習			解剖学、生理学、運動学などの教科書を適宜参照	
【使用教科書・教材・参考書】			リハビリテーション医学テキスト 改定第4版 南江堂, 2016	

科目名 (英)	リハビリテーション概論 (Introduction to Rehabilitation)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜4限
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	リハビリテーションの定義と概念、関連する用語について知ることができるよう解説を行う。また、リハビリテーション専門職を目指すうえで身に付ける必要のある要素について考える機会を提供する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの概念を理解し説明することができる</li> <li>・リハビリテーションを実践するためにどのような医療人を目指すべきか考えることができる</li> </ul>						
評価方法 (基準)	1)筆記試験(80%) 2)課題レポート(20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	リハビリテーションの定義と歴史について知ることができる	講義内容の復習
2		講義	リハビリテーションの対象と時期について知ることができる	講義内容の復習
3		講義	医学的リハビリテーションとは何かを知ることができる	講義内容の復習
4		講義	医学的リハビリテーションについて例を通して考えることができる	講義内容の復習
5		講義	社会的リハビリテーションとは何かを知ることができる	講義内容の復習
6		講義	社会的リハビリテーションについて例を通して考えることができる	講義内容の復習
7		講義	職業的リハビリテーションとは何かを知ることができる	講義内容の復習
8		講義	職業的リハビリテーションについて例を通して考えることができる	講義内容の復習
9		講義	教育的リハビリテーションとは何かを知ることができる	講義内容の復習
10		講義	教育的リハビリテーションについて例を通して考えることができる	講義内容の復習
11		講義	リハビリテーションに必要なチーム医療について知ることができる	講義内容の復習
12		講義	チーム医療を実践するうえでの、「理想の病院」について考えることができる	講義内容の復習
13		講義	医療倫理、医療におけるホスピタリティーについて知ることができる	講義内容の復習
14		講義	「理想の医療人」について考えることができる	講義内容の復習
		本試験	筆記試験	
15		講義	リハビリテーション専門職を目指す上で必要な知識は何かを理解できる	講義内容の復習
準備学習 時間外学習			講義内容の復習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	理学療法概論 ( Childhood disease )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	稲葉夏海
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜 2限
教員の略歴	理学療法士。回復期から生活期のリハビリテーションを経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の概要、定義を学ぶ</li> <li>・理学療法の評価・治療の大まかな流れを学ぶ</li> <li>・理想の理学療法士像を考える。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の定義が述べられる。</li> <li>・理学療法の評価・治療の大まかな意図を理解する。</li> <li>・どんな理学療法士になりたいか、理想とする理学療法士になるために何をすればいいのか考えることが出来る。</li> </ul>						
評価方法 (基準)	課題レポート: 90% 出席参加状況: 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	理学療法と何かを学ぶ	教科書読み・予習及び復習
2		講義	理学療法士に関連する法律について学ぶ	教科書読み・予習及び復習
3		講義	リハビリテーションにおける理学療法の役割①	教科書読み・予習及び復習
4		講義	リハビリテーションにおける理学療法の役割②	教科書読み・予習及び復習
5		講義	理学療法士の職務内容について①	教科書読み・予習及び復習
6		講義	理学療法士の職務内容について②	教科書読み・予習及び復習
7		講義	理学療法士の職務内容について③	教科書読み・予習及び復習
8		講義	診療報酬について	教科書読み・予習及び復習
9		講義	理学療法の一連の流れについて①	教科書読み・予習及び復習
10		講義	理学療法の一連の流れについて②	教科書読み・予習及び復習
11		講義	理学療法の一連の流れについて③	教科書読み・予習及び復習
12		講義	理想の理学療法士像について考える①	教科書読み・予習及び復習
13		講義	理想の理学療法士像について考える②	教科書読み・予習及び復習
14		講義	理想の理学療法士になるための4年間の目標を考える。①	教科書読み・予習及び復習
15		講義	理想の理学療法士になるための5年間の目標を考える。①	教科書読み・予習及び復習
準備学習 時間外学習			事前にテキストを読む	
【使用教科書・教材・参考書】			PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論 課題・動画を使ってエッセンスを学びとる 第1版 羊土社 その他備品教材使用	

科目名 (英)	理学療法評価学 I ( Evaluation of PT I )	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜3-4限
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	①理学療法評価とは何かを学ぶ ②バイタルサインとは何か学ぶ ③形態測定を学ぶ ④関節可動域検査を学ぶ						
到達目標	①理学療法評価の統合と解釈ができる ②バイタルサインを理解、実施できる ③形態測定、関節可動域検査が実施できる						
評価方法 (基準)	①実技試験 90% ②出席点 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	評価の意義と目的を説明できる	実技の復習
2		演習	検査開始時に必要な衛生管理について理解し実践できる	実技の復習
3		演習	問診や情報収集ができる	実技の復習
4		演習	バイタルサインについて理解し血圧・脈拍測定を行える	実技の復習
5		演習	四肢の周径測定ができる	実技の復習
6		演習	四肢長の測定ができる	実技の復習
7		演習	関節可動域とその測定について定義を述べられる	実技の復習
8		演習	肩関節屈曲・伸展の可動域を測定できる	実技の復習
9		演習	肩関節外転・内転の可動域を測定できる	実技の復習
10		演習	肩関節水平屈曲・水平伸展の可動域を測定できる	実技の復習
11		演習	肩関節外旋の可動域を測定できる	実技の復習
12		演習	肩関節内旋の可動域を測定できる	実技の復習
13		演習	肘関節の可動域を測定できる	実技の復習
14		演習	前腕の可動域を測定できる	実技の復習
15		演習	手関節の可動域を測定できる	実技の復習
		本試験	実技試験	
準備学習 時間外学習			検査の自主練習を行う	
【使用教科書・教材・参考書】			理学療法評価学 改定第6版 金原出版株式会社	

科目名 (英)	理学療法評価学Ⅱ ( Evaluation of PT Ⅱ )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	稲葉夏海
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	前期水3.4 限 後期金3.4 限
教員の略歴	理学療法士。回復期から生活期のリハビリテーションを経験。						
学習内容	①講義にて理学療法評価における意義や目的、必要知識を学ぶ。 ②演習を中心に、問診、検査・測定を練習する。健康者同士で実施する中で注意点や対象者への接し方を学ぶ。 ③医療面接による情報と検査・測定の結果の関連性について、演習の中で説明しながら理解を深める。 ④徒手筋力検査法を学ぶ。						
到達目標	①理学療法評価の意義と目的を理解し説明することができる。 ②理学療法評価における必要知識を理解し、演習の中で関連付けることができる。 ③検査・測定の意義と目的を理解し、健康者同士で実施することができる。 ④徒手筋力検査法が実施できる。						
評価方法 (基準)	①実技試験 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	手関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
2		演習	股関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
3		演習	股関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
4		演習	股関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
5		演習	膝関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
6		演習	足関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
7		演習	足関節の関節可動域テストが実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
8		演習	関節可動域テスト 総復習	教科書にて予習、メモを見ながら復習
9		演習	関節可動域テスト 総復習	教科書にて予習、メモを見ながら復習
10		演習	徒手筋力検査法 概要	教科書にて予習、メモを見ながら復習
11		演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
12		演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
13		演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
14		演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
15		演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
16		演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
17		演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
18		演習	肩関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
19		演習	肘関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
20		演習	前腕の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
21		演習	股関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
22		演習	股関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
23		演習	股関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
24		演習	膝関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
25		演習	足関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
26		演習	足関節の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
27		演習	肩甲帯の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
28		演習	頸部体幹の関節可動域が測定できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
29		演習	頸部体幹の徒手筋力検査法が実施できる。	教科書にて予習、メモを見ながら復習
30		演習	徒手筋力検査法のすべての項目を実施できる	教科書にて予習、メモを見ながら復習
		確認試験		
		本試験		
準備学習 時間外学習			空き時間に実技練習をおこなうこと。	
【使用教科書・教材・参考書】			新・徒手筋力検査法 原著第10版	

科目名 (英)	地域福祉論 ( Principles of Community welfare )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	佐野篤
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜隔週 4~5限
教員の略歴	社会福祉士、精神保健福祉士、保育士。社会福祉法人施設等で職務経験を有する。						
学習内容	様々な分野の社会福祉活動は「地域での暮らし」を基盤としていることに注目し、社会福祉の活動とは、自分を含めた全ての人々が、地域社会の一員として安心且つ幸せを感じながら生活していくための手段であることを学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の基礎理念について概要を理解する。</li> <li>・地域福祉における課題と支援について概要を理解する。</li> <li>・「地域」にフォーカスされている国の施策について、その方向性を理解する。</li> <li>・地域包括支援体制についてその概要を理解する。</li> </ul>						
評価方法 (基準)	出席 20% 期末レポート 80%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	講師自己紹介 心と身体の関係	配布資料の復読、課題作成
2		講義	現代社会と社会福祉	配布資料の復読、課題作成
3		講義	住民・市民参加の地域福祉1	配布資料の復読、課題作成
4		講義	住民・市民参加の地域福祉2 DVD	配布資料の復読、課題作成
5		講義	住民・市民参加の地域福祉3	配布資料の復読、課題作成
6		講義	住民・市民参加の地域福祉3 DVD	配布資料の復読、課題作成
7		講義	戦後日本の社会福祉の成立と動向	配布資料の復読、課題作成
8		講義	戦後日本の社会福祉の成立と動向 DVD	配布資料の復読、課題作成
9		講義	地域福祉における地方自治体の役割	配布資料の復読、課題作成
10		講義	地域福祉における地方自治体の役割1 DVD	配布資料の復読、課題作成
11		講義	地域福祉における地方自治体の役割	配布資料の復読、課題作成
12		講義	地域福祉における地方自治体の役割2 DVD	配布資料の復読、課題作成
13		講義	地域福祉における民間の役割	配布資料の復読、課題作成
14		講義	地域共生社会における包括的支援体制1 DVD	配布資料の復読、課題作成
15		講義	地域共生社会における包括的支援体制2 期末レポート解説	配布資料の復読、課題作成
準備学習 時間外学習			配布資料の復読、課題作成	
【使用教科書・教材・参考書】			特になし	

科目名 (英)	国家試験演習 I ( The prac of Qualifying Exam I )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	稲葉夏海
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期～後期 木曜 曜日・時限 1～2限
教員の略歴	理学療法士。回復期から生活期のリハビリテーションを経験。						
学習内容	国家試験に向け、勉強の方法や習慣を確立する。また、解剖学・生理学・運動学といった専門基礎科目の知識の定着を図る。						
到達目標	①専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学)の穴埋め問題や○×問題が解ける。 ②学習方法・学習習慣が確立できる。						
評価方法 (基準)	筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	専門基礎分野(骨・関節)を学習することで国家試験の出題ポイントを把握し理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
2		講義	専門基礎分野(韧带・筋)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
3		講義	専門基礎分野(運動学)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
4		講義	専門基礎分野(運動学)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
5		講義	専門基礎分野(姿勢・歩行)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
6		講義	専門基礎分野(バイオメカニクス)を学習することで国家試験の出題ポイントを把握し理解を深める	講義で学習した内容を復習する。
7		講義	専門基礎分野(運動学習)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
8		講義	専門基礎分野(神経)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
9		講義	専門基礎分野(感覚)を学習することで国家試験の出題ポイントを把握し理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
10		講義	専門基礎分野(循環系)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
11		講義	専門基礎分野(呼吸系)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
12		講義	専門基礎分野(消化)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
13		講義	専門基礎分野(泌尿器)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
14		講義	専門基礎分野(代謝)を学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
15		講義	専門基礎分野(発生)を反復学習することで、国家試験の出題ポイントを把握し理解を深めることができる	講義で学習した内容を復習する。
		本試験		
準備学習 時間外学習			国試の達人を使用し、授業の予習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】			国試の達人 PT・OTシリーズ2020 運動解剖生理学編 アイベック	

科目名 (英)	PTスポーツ概論 (Introduction to PT Sports)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	今野良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士(認定:脳卒中)。回復期・介護保険領域のリハビリテーションを経験し、現在はスポーツ分野での活動も実施。						
学習内容	スポーツ障害の症状と対応について説明できる。 スポーツ障害やアクシデントの要因を学び、リスク管理について説明できる。 各ライフステージに広がるスポーツの特徴をあげることができる。						
到達目標	必修科目で学習した内容をもとに、理学療法の対象となるスポーツ障害に対する理解を深める。						
評価方法 (基準)	・出席点(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション (シラバス説明、授業の注意点確認など)	スポーツと理学療法士の関わりについて調べ
2		講義	概論①：スポーツ障害に対するリハビリテーションが理解できる。	スポーツと理学療法士の関わりについて調べ
3		講義	概論②：スポーツ障害に対する理学療法評価と治療介入が理解できる。	スポーツと理学療法士の関わりについて調べ
4		実習	スポーツ障害に対する理学療法について説明できる。	スポーツと理学療法士の関わりについて調べ
5		実習	スポーツ障害に対する理学療法について説明できる。	スポーツと理学療法士の関わりについて調べ
6		実習	ライフステージに合わせたスポーツ活動について説明できる。	社会生活におけるスポーツ活動の意義を考えた
7		実習	ライフステージに合わせたスポーツ活動について説明できる。	社会生活におけるスポーツ活動の意義を考えた
8		実習	①スポーツ活動におけるリスク管理について説明できる。	スポーツ現場における応急対応を学ぶ。
9		実習	②スポーツ活動におけるリスク管理について説明できる。	スポーツ現場における応急対応を学ぶ。
10		実習	③スポーツ活動におけるリスク管理について説明できる。	スポーツ現場における応急対応を学ぶ。
11		実習	④スポーツ活動におけるリスク管理について説明できる。	スポーツ現場における応急対応を学ぶ。
12		実習	⑤スポーツ活動におけるリスク管理について説明できる。	スポーツ現場における応急対応を学ぶ。
13		実習	⑥スポーツ活動におけるリスク管理について説明できる。	スポーツ現場における応急対応を学ぶ。
14		実習	①トレーニング施設・設備利用時のリスク管理について説明できる。	トレーニング施設・設備使用時の注意点を調べる。
		本試験		
15		実習	②トレーニング施設・設備利用時のリスク管理について説明できる。	トレーニング施設・設備使用時の注意点を調べる。
準備学習 時間外学習			上記に示した準備学習課題を実施する。	
【使用教科書・教材・参考書】			【参考書】 スポーツ理学療法学 改訂第2版.MEDICAL VIEW スポーツ医学検定公式テキスト1級・2級・3級	

科目名 (英)	PTマネジメント概論 (Introduction to PT Management)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜1,2限
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	医療サービスを支える組織運営という視点から経営組織に必要なマネジメントについて学ぶ。マネジメントとは、経営組織が保有する様々な資源を管理し、経営上の効果を最適化するための概念や仕組みをさす。経営組織というのは個人が集まって活動しているため、個人活動と共通する部分がある。サークル活動やアルバイトなど、身近な活動と対比させながら、マネジメントが私たちの身近なものであり役に立つ考え方であるという認識をもってもらえるよう進める。						
到達目標	組織活動の意義およびマネジメント活動を説明できる。マネジメント活動の目的である「組織目標の達成」および「組織の活性化」に必要な要素について説明できる。アクティブラーニングを通して、マネジメント行動を意識できる。						
評価方法 (基準)	レポート: 50% 出席状況: 50%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
2		講義	社会人基礎力とマネジメントを展開する場としての組織について説明できる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
3		講義	組織の成立ちと役割、組織活動とマネジメント活動との関係について説明できる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
4		講義	時代変化と組織の関係性、マネジメントの質的变化と人材の重要性について説明できる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
5		講義	人の活用と人材育成、人材育成のための人事制度について説明できる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
6		講義	環境変化の捉え方とマーケティング的思考の活用について説明できる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
7		講義	効率的な業務遂行と仕事の三要素について説明できる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
8		講義	定性情報と定量情報を理解し、問題解決に有用な手法を説明できる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
9		講義	リーダーシップの概念を理解し、自分のリーダーシップの特徴を把握することができる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
10		講義	ワーク・フックとコミュニケーションの関係を理解し、円滑なコミュニケーションの説明ができる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
11		講義	経営資源としての財務について説明できる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
12		講義	利益の考え方について説明できる		講義資料を良く読んで振り返っておくこと。
13		講義	グループワーク演習① 状況認識の共有、課題形成の演習を行うことができる		事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
14		講義	グループワーク演習② 状況認識の共有、課題形成の演習を行うことができる		事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
15		講義	グループワーク演習③ ディスカッション、アイデアの集約を行うことができる		事前に課す準備を行ない、積極的に演習に取り組むこと。
準備学習 時間外学習			授業の復習		
【使用教科書・教材・参考書】			適宜資料配布		

科目名 (英)	PTメディカル概論 (Introduction to PT Medicine)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	古川雅一
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜1,2限
教員の略歴	理学療法士。修士(医療福祉学)。病院勤務、理学療法士養成校教員(兵庫県)、JICA青年海外協力隊(キルギス派遣)を経験。						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学と医療の歴史の変遷を学び、現代の医療状況を理解する。</li> <li>・医療の原則と倫理に関して理解する。</li> <li>・社会保障制度の原則と実態を学び、医療の社会的役割を理解する。</li> </ul>						
到達目標	学んできた基礎知識を活かし、理学療法の対象となる高齢者や障がい者に対する理解を深めることができる。						
評価方法 (基準)	レポート: 50% 出席状況: 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション	授業の復習
2		講義	医療の概念について述べるができる	授業の復習
3		講義	医療の歴史について理解できる(起源)①	授業の復習
4		講義	医療の歴史について理解できる(中世)②	授業の復習
5		講義	医療の歴史について理解できる(近代)③	授業の復習
6		講義	医療の歴史について理解できる(日本)④	授業の復習
7		講義	医療の歴史について理解できる(現代)⑤	授業の復習
8		講義	1~7講までの復習	授業の復習
9		講義	基本的な医療倫理規範について述べるができる	授業の復習
10		講義	脳死, 臓器移植, 情報開示, 個人情報保護について述べるができる。	授業の復習
11		講義	年金, 医療保険, 医療制度各種について述べるができる。	授業の復習
12		講義	医療法と医療計画, 地域保健と公衆衛生について述べるができる。	授業の復習
13		講義	予防医学について述べるができる。	授業の復習
14		講義	9~13講までの復習	授業の復習
15		講義	1~14講までのまとめ	授業の復習
準備学習 時間外学習			授業の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			適宜資料配布	